

平成23年度病害虫発生予報第3号

平成23年6月1日
愛知 県

1 普通作物

イネいもち病は5月下旬現在発生を確認していませんが、気温20～25℃で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

5月中旬に、海外からウンカ類の飛来しやすい気象条件が2回ありました。昨年は5月下旬に、ほ場でセジロウンカの生息を確認し、やや多い発生になりました。早い時期の飛来はその後の多発生につながるので、注意しましょう。特に「あさひの夢」はセジロウンカが増殖しやすい品種ですので、注意しましょう。

コムギでは、収穫期の降雨が赤かび病の発生を助長します。収穫期を迎えたほ場から、速やかに収穫しましょう。

2 果樹

平年より12日早く、5月27日頃に梅雨入りしました。果樹全般に病害が増えやすくなるので、注意しましょう。

ナシ黒星病の発生はやや多い状況です。発病葉や果実は感染源となるので取り除き、適切に処分し、薬剤による防除を徹底しましょう。

ブドウでは、べと病と黒とう病の発生を一部のほ場で確認しています。降雨が続くと急速に蔓延するおそれがありますので、発生を確認したら罹病葉などの除去に努めるとともに、治療効果の高い薬剤を使用し速やかに防除しましょう。

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ越冬成虫の誘殺数は平年並です。有効積算温度を用いて予測した第2世代ふ化幼虫の防除適期は6月第4半旬頃です。適期を逃さないように防除しましょう。

カキにおいて、フジコナカイガラムシの発生が多い地域があります。有効積算温度を用いて予測した第1世代ふ化幼虫防除適期は昨年並の6月7日から13日です。詳細については、本日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

3 野菜

施設トマト（促成・半促成栽培）の収穫が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。栽培終了後は、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

4 花き

キク（露地）の白さび病は、梅雨に入ると発生が多くなります。特に親株床での発生に注意し、発病のないものを親株に用いましょう。なお、不要になった親株は伝染源となる可能性がありますので、できるだけ早く除去しましょう。

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	昨年の発生量は少ない 5月下旬現在発生を確認していない 6月の降水量は多い	－ ± ＋
	紋枯病	平年並	全域（早期栽培）	昨年の発生量は平年並	±
	縞葉枯病	やや少ない	全域	抵抗性品種の栽培が多い ヒメトビウンカの発生量は平年並 ヒメトビウンカの保毒虫率は低い	－ ± －
	ニカメイガ	やや少ない	全域	予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	－
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イネミズゾウムシ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は多い	－ ＋
	黒点病	平年並	全域	孢子形成量はやや少ない 6月の降水量は多い	－ ＋
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない	－
	アブラムシ類	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は多い	＋ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	アブラムシ類	多い	全域	5月下旬の発生量が多い	+
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	黒星病	平年並	全域	4月の発病枝率はやや少ない 6月の降水量は多い	- +
	灰星病	やや多い	全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は多い	± +
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	± -
ブドウ	べと病	やや多い	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	黒とう病	やや多い	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	晩腐病	やや多い	全域	昨年の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	やや多い	全域	昨秋の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	全域	昨秋の発生量は平年並 6月の降水量は多い	± +
	うどんこ病	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない	-
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	越冬成虫量は少ない 予察灯における誘殺数は少ない フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	- - -

・防除対策

[ナシ黒星病]

発病葉や発病果実は伝染源となるので、取り除き、園外へ持ち出し処分するとともに、マネージDF、スコア顆粒水和剤、ベルコートフロアブルなどで防除を徹底しましょう。また、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

[ナシ・アブラムシ類]

スミチオン水和剤40、アドマイヤーフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモせん孔細菌病〕

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意しチオノックフロアブル、デランフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ灰星病〕

収穫期前に降雨が多いと発病が急激に増加するので、花落ちが悪かった園ではバイコロール水和剤、ベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔ブドウべと病〕

早期発見につとめ、発生を認めた場合は、発病部位を取り除くとともにアミスター10フロアブル、ホライズンドライフロアブル、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔ブドウ黒とう病〕

発生を認めた場合は、発病部位を取り除くとともにアミスター10フロアブル、ホライズンドライフロアブル、マネージDFなどで防除しましょう。果実肥大期から袋かけ前には果実の汚れや果粉の溶脱に注意しましょう。

〔ブドウ晩腐病〕

降雨による果実感染を防止する袋掛けは、摘粒後速やかに実施しましょう。アミスター10フロアブル、ホライズンドライフロアブル、スイッチ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔カキ炭疽病〕

昨年多発した園では、デランフロアブル、キノンドーフロアブルなどで予防散布に努めましょう。

〔カキ角斑落葉病、カキ円星落葉病〕

樹勢が弱まると多発しやすいので、肥培管理に注意して樹勢の維持を図りましょう。デランフロアブル、キノンドーフロアブルなどで防除しましょう。

花き

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 6月の降水量は多い	- +

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台5月27日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 30% 平年並 : 40% 高い : 30%

〔降水量〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は梅雨前線や気圧の谷の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止